

う蝕学分野

教授 野 杵 由一郎

沿革

当分野は、新潟大学歯学部創設二年後の昭和42年4月1日に、細田裕康教授（現 新潟大学名誉教授、東京医科歯科大学名誉教授）を初代教授として、歯科保存学第一教室として設立されました。昭和57年には細田教授が転任され、岩久正明教授（現 新潟大学名誉教授、日本歯科大学客員教授）が後を引き継がれました。

平成13年4月には大学院部局化に伴う組織改編のため、大学院医歯学総合研究科所属となるとともに現在の分野名が制定されました。

平成15年3月に岩久教授が退官され、後任として同年10月より新潟大学歯学部 歯科総合診療部より転出された興地隆史教授が就任されました。平成27年1月に興地教授の東京医科歯科大学歯学部教授への転出に伴い、平成28年4月より大阪大学大学院歯学研究科より転出した野杵が第四代教授として着任しました。

細田教授の時代は専ら保存修復学の教育・研究・診療を担当しておりましたが、岩久教授の着任以降現在に至るまで、これらに加えて歯内療法も担当しています。

教育

卒前教育としては、「保存修復学」「う蝕学」「歯内療法学」の講義、基礎実習、臨床実習を担当しています。卒後教育においては、卒後臨床教育プログラムを構築し、歯科保存学に特化した人材の養成プログラムを立ち上げました。これにより、近未来的に日本歯科保存学会保存治療専門医・指導医、日本歯内療法学会専門医・指導医あるいは日本接着歯学会認定医を中心に保存治療の各種専門医・認定医等を多数輩出できると確信しています。

診療内容

当分野は、新潟大学医歯学総合病院においては、歯科の中の“歯の診療科”を担当しております。簡単にご説明しますと、日本歯科保存学会専門医・指導医や日本歯内療法学会専門医を中心に、ミニマルインターベンション（MI）の理念に基づいて歯質や歯髄の保存を最優先した保存修復治療や、歯科用（手術用）マイクロスコープを積極的に活用した難治性の歯内疾患症例に対する治療、医科との連携が必要な有病者の治療や、地域との連携が必要な治療の他、「変色歯外来」（図1）と「CAD/CAM外来」（図2）の二つの専門外来を運用し、科のモットーである『Evidence based dentistryの実践を目指して』の実践を通して専門的医療の提供を行っています。診療室には6台のマイクロスコープが設置され、卒後間もない若手ドクターでも手軽に使用できる環境が整っています（図3）。

研究

研究では、『デンタルバイオフィルムと根尖性歯周炎の関わり』、『歯髄再生療法の実現化』、ならびに『象牙質・歯髄複合体の発生、修復および再生』を目指した研究などに代表される、より生物学的視点に立った研究を幅広く展開しています。

現在、教員9名、医員1名、大学院生8名の17名と少人数ではありますが、創造性にあふれた教室建設と臨床に根ざした研究体制の確立に教室員全員が精力を注いでいます（図4、表1）。将来的には、病院および研究科・学部において有数の機動戦隊と姿を変えるべく、研究・臨床・教育の各々の機能的・有機的な融合を図りながら教室員一同切磋琢磨していく所存です。何卒ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

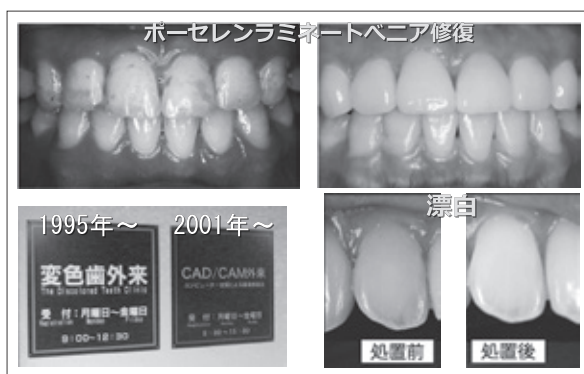


図1 審美修復

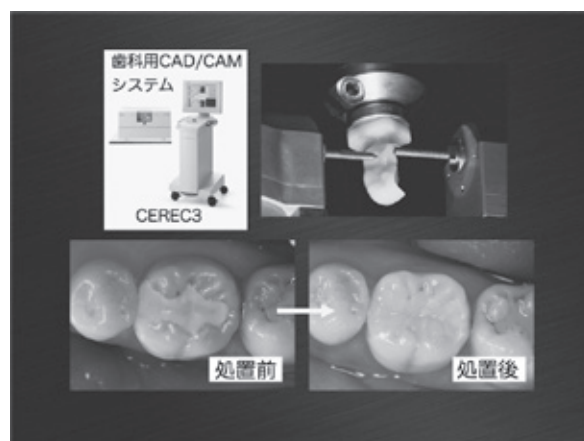


図2 CAD/CAM



図3 マイクロスコープ



図4 う蝕学分野 教室員

表1 平成28(2016)年度 2016/4/1現在 う蝕学分野教室員名簿

No.	氏名	ふりがな	職位	出身大学	所属
1	野村 由一郎	のいり ゆういちろう	教授	徳島	研究科
	福島 正義	ふくしま まさよし	教授 (口腔保健学)	新潟	歯の診療科
2	吉羽 邦彦	よしば くにひこ	准教授	同上	研究科
3	吉羽 永子	よしば ながこ	講師	同上	病院
4	韓(児玉)臨麟	はん りんりん	助教	首都医科大(中国)	研究科
5	庭野 和明	にわの かずあき	助教	新潟	病院
6	竹中 彰治	たけなか しょうじ	助教	同上	研究科
7	金子 友厚	かねこ ともあつ	助教	東京医歯科	病院
8	大墨 竜也	おおすみ たつや	助教	新潟	研究科
9	大倉 直人	おおくら なおと	医員(歯科医師)	同上	病院
10	坂上 雄樹	さかうえ ゆうき	大学院生4年	同上	研究科
11	末山 有希子	すえやま ゆきこ	大学院生4年	長崎	研究科
12	枝並 直樹	えだなみ なおき	大学院生3年	新潟	研究科
13	山本 信一	やまもと しんいち	社会人大学院生3年	同上	研究科
14	竹内 亮祐	たけうち りょうすけ	大学院生2年	同上	研究科
15	遠間 愛子	とうま あいこ	大学院生2年	同上	研究科
16	長谷川 泰輔	はせがわ たいすけ	大学院生2年	同上	研究科
17	鈴木 裕希	すずき ゆき	大学院生1年	同上	研究科